

3月

# 新着図書

## 神の蝶、舞う果て

著者名： 上橋 菜穂子  
出版社： 講談社

神秘の地〈闇の大井戸〉で、世界を支える“神の蝶”を守る少年ジェードと少女ルクラン。二人は、蝶を狙う魔物との戦いの中で、自分たちの運命と世界の秘密に向き合っていく物語。1999年から2001年にかけて、上橋菜穂子の代表作である『守り人』シリーズの創作と並行して執筆されたこの物語は、のちの『獣の奏者』、『鹿の王』、そして『香君』にもつながる、作者の創作の軌跡を知ることができる貴重な作品でありながら、これまで書籍化されていませんでした。この物語は、人と人との関係だけでなく、人間と他の命ある存在との繊細で複雑なつながりを描きたいという著者の想いから生まれました。執筆から20年以上の時を経て、円熟の域に達した著者の手で加筆修正され、力強くも美しい物語へと成長した物語が、ついに世界へと解き放たれます。

## 失われた貌

著者名： 櫻田 智也  
出版社： 新潮社

本物の「伏線回収」と「どんでん返し」をお見せしましょう！ 山奥で、顔を潰され、歯を抜かれ、手首から先を切り落とされた死体が発見された。事件報道後、警察署に小学生が訪れ、死体は「自分のお父さんかもしれない」と言う。彼の父親は十年前に失踪し、失踪宣告を受けていた。無関係に見えた出来事が絡み合い、現在と過去を飲み込んで、事件は思いがけない方向へ膨らみ始める。

## 白鷺立つ

著者名： 住田 祐  
出版社： 文藝春秋

玉照院の師弟は「やんごとなき秘密」を抱えていた

天明飢饉の傷痕いまだ癒えぬ比叡山延暦寺に、失敗すれば死といわれる〈千日回峰行〉を成し遂げようとする二人の仏僧がいた。歴史に名を残すための闘いは、やがて業火となり叡山を飲み込んでいく。

## PRIZE—プライズ—

著者名： 村山 由佳  
出版社： 文藝春秋

天羽カインは憤怒の炎に燃えていた。本を出せばベストセラー、映像化作品多数、本屋大賞にも輝いた。それなのに、直木賞が獲れない。文壇から正当に評価されない。私の、何が駄目なの？

……何としてでも認めさせてやる。全身全霊を注ぎ込んで、絶対に。

## サチコ

著者名： 群 ようこ  
出版社： 幻冬舎

親が残してくれた1DKのマンションで一人暮らし。内向きで、控えめで、読書さえしてれば幸せ。「褒められもせず、苦にもされず」が生きるモットー。そんなサチコが55歳で長年勤めた職場を早期退職し、自宅から徒歩3分の「食堂キング」でアルバイトを始めた。初めての接客が不安なサチコだったが、気のいい店主夫婦やユニークなお客さんたちに囲まれ、遅ればせながら人生の色々を学んでいく。けれど、店主の腰痛が長引いて、キング閉店の危機が……！？  
ときにじんわり、ときにほろ苦く、どこか滑稽で一。ささやかな人生の豊かさを味わえる長編小説。

## 東京カブストーリー

著者名： 米村 吉隆  
出版社： 東洋経済新報社

■笑えて泣けて、そして学べる「株」の教養小説誕生！  
鶴田舞香は関西の私立大学を卒業し、東京プライム市場に上場する老舗スポーツメーカー「バードスポーツ」に入社したばかり。子どもの頃からテニスが得意な、元気が売りの新人女子だ。そんな鶴田が配属されたのは経営企画部、しかも担当はIR（投資家向け広報）。「ヤバいことになっちゃったなあ……」。そんな鶴田に、社内から一目置かれるシゴデキ部長の三谷が声をかけた。「株価ってなんだかわかる？」——。  
鶴田の成長とともに、株のホントを理解する物語が今、始まる。